

自灯明 法灯明

自法寺報
第 6 号
平成 27 年
2 月 2 日

発行

曹洞宗

祖廣山 自法寺

〒509-8232

恵那市飯地町

919 番地

編集

住職 小栗隆博



「葬祭」考 その四

一、葬儀の営まれ方のいろいろ

葬儀を営む際には、まずその日時
の選定と、場所の設定をする必要が
あります。またそれと同時に、何人
のお坊さんに供養をお願いするの
かを決めなければなりません。

今回は先ず、お坊さんの数につい
て説明します。

当地での最も一般的な葬儀は、菩
提寺の住職と役僧の僧侶三人の、合
わせて四人で行う形が最も一般的
です。このスタイルを片鉞（かたは
ち）と呼びます。葬儀の途中や最後
にチン、ポン、ジャランという少し
騒がしい鳴物がならされますが、こ
れを鼓鉞（くはつ）といい、一組で
鳴らす場合が片鉞です。また、二組

で鳴らす場合は僧侶の数が六人と
なり、両鉞（ちようはち）と呼ばま
す。この場合は導師を含めて七人の
僧侶により葬儀が営まれます。

さらにもう一人増えると両鉞
（おおりようはち）となります。

もうすこし大がかりな場合は、僧
侶の葬儀に準じて行い、導師を三人
立てる場合もあります。信州方面で
はこの三人導師が一般的なよう
です。

数が少ない方法では、僧侶が菩提
寺の住職一人だけという場合もあ
りますが、これは極まれにしか行わ
れません。最近は、それに脇僧が一
人つく形式が増えていたとも聞き
ますが、これもあまり一般的ではあ
りません。

ここで、僧侶の数が多ければいい
のか、少なくとも構わないのかとい
う問題があるのですが、僧侶の側か
ら言わせていただくならば、一人で
お勤めする葬儀ほど辛いものはあ
りません。およそ一時間の間、誰の
助けもなく、一人の人間に引導を渡
すという作業は、実はとてもエネル
ギーを消耗することなのです。よっ
て近隣のご住職方に依頼し、ご加勢
いただいているというのが実情で
しょう。またお役僧のお手伝いを頂
けた方が、より葬儀が厳粛かつ荘嚴
に行えます。

果たして、お坊さんの数が多けれ
ば良い葬儀なのか、お布施との兼ね
合いについてなどは、次回説明しま
す。

（以下次号）

さまざまな葬儀

社葬	会社が施主となる葬儀。参列者が多い
一般葬	家族・友人・近隣住民らが参列。宗教儀礼を中心とした伝統的な形
家族葬	家族・親戚など少人数で行う。ゆっくり故人との別れを惜しむ
直葬	寺院や会館での儀式を行わず火葬のみ行う。炉前で読経することも
一日葬	通夜を省略し葬儀式だけを1日で終える
骨葬	遺体を火葬した後で儀式を執り行う。東北で一般的
神葬祭	神道の宗教儀礼で営まれる葬儀。焼香はなく玉串を奉奠する
友人葬	僧侶ではなく親しい知人や親族が導師を勤める。創価学会で盛ん
無宗教葬	宗教儀礼にとらわれず遺品を飾ったり音楽を演奏したりする
生前葬	死ぬ前に友人・知人らを招き、本人が感謝の思いを伝える
助葬	身元不明の死者を福祉団体などが縁者に代わって弔う葬儀

出典：『中外日報』平成 26 年 1 月 23 日号

行事予定

◎涅槃会

左記の通り、涅槃会法要を行います。お釈迦様がお亡くなりになった日
に合わせ、お釈迦様の死を悼み、ご
供養します。

この日は年に一度、当山所蔵の文
化財である江戸期の涅槃絵図をお
掛けします。また、涅槃団子をお供
えし、法要後にお参りの皆さまにお
持ち頂きます。

役員一同とお勤めいたしますが、
ちようど日曜日でもあります。お時
間あります方は、お気軽にお参りく
ださい。

なお、お参り頂かなかつた各家に
は、役員さんがお団子をお配りくだ
さいます（町外檀家には発送しま
す）。

記

平成二六年二月一五日（日）

八時半～

※また、前日の一四日（土）は涅槃
団子作りを九時から行います。町内

でお手伝いのお願いはしておりま
すが、町内外問わず、お時間ありま
す方は、お手伝い頂けると幸いです。
◎大般若会

左記の通り、大般若会を行います。
近隣ご寺院さま方にお手伝い頂き、
大般若経六百巻を、転読という方法
でお読みし、その功德をもって、皆
さまの幸せをお祈りする法要です。

なお、法要後の講話は、土岐の東
濃地科学センター研究員・安江健一
先生にお願いしました。飯地を含む
当地の地形的特徴などについて、た
いへん興味深い内容を、分かりやす
くお話し頂けると幸いです。

記

平成二六年三月四日（水）

一〇時～ お昼ごはん有り

講話（法要後）

「東濃地方の地形と地質について」

講師 安江健一先生（理学博士）

（独）日本原子力研究開発機構

東濃地科学センター

地層科学研究部 研究員